令和6年度 自己評価書

令和7年3月21日
真庭市立勝山こども園

1. 勝山こども園の教育保育目標

○教育・保育方針

子ども達を取り巻く環境や子ども達の家庭環境を支援し、子どもの状況や発達過程を踏まえ、子どもが現在を最も良く生き、望ましい未来をつくり出す力の基礎を培う。

○保育・教育目標

適切な環境の中で養護と教育が一体となった保育を行い、心身ともにたくましく心豊かな幼児の育成を目指す。

○めざす子ども像

- ・明るく健康な子ども
- ・思いやりのある子ども
- ・やりとげる子ども
- ・考える子ども
- ・のびのびと自分の思いを表現する子ども

2. 本年度の重点目標

- ・養護の行き届いた環境の中で子どもの様々な欲求を満たし、生命の保持、情緒の安定を図る。
- ・身近な人々や自然、文化に触れる様々な体験を通して、感動する心や人と関わる力を育てる。
- ・家庭との連携を図りながら、生活に必要な習慣や態度を育成するとともに、子育ての楽しさを共有することができる。
- ・一人一人の発達や特性に応じた保育を努める中で、自ら人や環境と関わって遊び、豊かな心情や主体性を育てる。

3. 園評価の個別評価

評価指標	考 察	園総合評価
教育課程・指導計画	リーダーを中心に、子どもの発達や課題、環境などの話し合いを持ち、実践へとつなげることができていた。子どもの発達や興味に合わせて環境や遊びを構成することができた。	3
行事	回数や内容の見直しをしてよかった。内容に応じて、各年齢や担当が無理なく計画し楽しむことができた。参観日は親子で楽しむという目的を持って行うことができよかった。	3
組織・運営	3上、3未共に話し合いの場を定期的に持ち、保育を進めることができ、職員間で連携をとることができた。より効率化を目指して子どもたちの発達を促せる組織運営作りを進めたい。	3
学級経営	子どもたちの発達を理解し、職員間で共通理解して保育を進めることができていた。一人一人の思いに耳を傾け保育環境を構築することができ、それが子どもたちの健やかな育ちにつながっていたと思う。	3
特別支援教育	子どもの特性を共通理解して、丁寧な対応を行うことができていたと思う。 家庭や関係機関との連携は引き続き深めて行く必要があると感じている。	3
安全管理・保健指導	点検カードでチェックして危険箇所等の把握に努め対応することができた。様々な場面を想定して訓練を行っているが、発生時の配慮をもっと考える必要があると思う。	3
研修（資質向上）	研修等で得た知識や情報を保育に生かしていた。復命を通して情報共有できたが、より深い話し合いの場など、チームで資質向上を進められるような取り組みも行っていきたい。	3
情報提供・保護者・地域との連携	コドモンを使っての配信に取り組むことができた。今後はより一層伝わりやすい配信の仕方を研修等を利用して進めたい。ホームページ等も情報発信の内容や仕方を工夫していきたい。	3
小学校との接続・連携	交流会など行うことができたが、職員間での細やかな話し合い等の時間は十分ではなかった。今後も課題として考えていく必要があると感じる。	3
子育て支援	懇談や日々の話しの中で、成長の様子を伝えたり相談にのったりすることができていた。行事に保護者の方が積極的に参加できるようにしたことで楽しさやつながりなどができたように思う。	3
食育の推進（給食）	栄養士を中心に年齢毎の課題や季節の行事などの食育活動を保育に取り入れることができた。給食の時間を楽しみにする子どもが多く、体の発達につながったと思う。	3

食事の提供（調理）	アレルギー対応もみんなで確認し合いながら誤食なく対応できたことがよかった。子どもの食べやすい大きさや味付けなど保育室と連携を取り行う事ができていた。	3
-----------	--	---

4. その他必要な評価

評価指標	考 察	園総合評価
保育の資質向上	公開保育に向けての研修で、環境構成や援助について深く考え大切さに気づくことができる機会になった。話し合いの時間を持つのが難しかったが、保育士間の連携を取ることができた。	3

5. 本年度の重点目標及び総合的な評価結果の考察等

<ul style="list-style-type: none"> ・一人一人の思いや発達に合わせた丁寧な保育を行うことで、子どもたちがのびのびと過ごし、様々な経験に意欲的に取り組んだり、心豊かに活動したりする姿へと繋げることができたと思う。課題も多様化してきているので、保育力の向上に努めていく必要がある。 ・ICTの活用も進み、園での様子などをわかりやすく伝えることができるようになった。その反面で、色々な機能を使って連携を取ることも今後進む中で、保護者との連携や信頼関係作りが希薄になりやすい部分もあるため、より一層意識して連携を取る必要があると考えられる。 ・保護者参加の行事を計画することで、親子でいつもと違った時間を持てたり、新たな気づきがあったりと、保護者にも有意義な時間となった。「楽しかった」という意見も多く、参加型の行事の取り入れ方の構築も必要だと思われる。

6. 評価結果を受けての具体的改善方法等

<ul style="list-style-type: none"> ・子どもたち一人一人の思いや発達に合わせたより良い保育を進めるために、日々の話し合いを深め、共通理解してよりよい保育環境作りを意識的に行っていく。また、話し合いの持ち方についても工夫し、互いに高められる方法を探っていき実践へとつなげていく。 ・保護者が安心して預けられる園作りを職員で連携して進め、情報を共有したり一緒に子育てを楽しむ機会も持つ事で、健やかな子どもの育ちへとつなげていく。

園評価基準

評 価	基 準	
4	80%以上の達成度	十分達成されている
3	60%以上80%未満の達成度	概ね達成されている
2	40%以上60%未満の達成度	取り組まれているが、成果が十分でない
1	40%未満の達成度	取り組みが不十分である